

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 19 号:2011 年 11 月－2012 年 1 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2011 年のウズベキスタンの GDP 成長率は 8.3%であった

このうち、鉱工業製品生産高が 6.3%、農業が 6.6%、公共サービスが 16.1%であった。また、国家財政収支は GDP 比 0.4%の黒字であった。

ウズベキスタンの GDP の構成に占める鉱工業生産の比率は 24.1%であった。2000 年はこの比率が 14.2%であった

ウズベキスタンでは 2011 年の鉱工業製品生産高の伸び率が 6.3%であった。鉱工業製品全体の伸び率の約 70%は高付加価値完成品を生産するいくつかの分野によってもたらされた。2011 年に特に高い成長率を示した分野は、機械製造業・自動車製造業（12.2%）、化学工業・石油化学工業（9.4%）、食品工業（13.1%）、建築資材製造業（11.9%）、製薬分野および家具分野（それぞれ 18%）であり、これらの分野がウズベキスタンの経済成長の機関車となった。一方、消費物資生産高は 2011 年、11.2%増加した。これは 2000 年と比較すると 4 倍を上回る増加率である。

ウズベキスタンでは 2011 年、すべての資金源を合わせて 108 億ドルの投資が行われた。2010 年比 11.2%の増加である

GDP に占める投資の割合は 23.9%であった。わが国の実体経済部門には約 29 億ドルの対内投資が誘致され、そのうち 78.8%が直接投資であった。

ウズベキスタンにおける 2011 年の製品輸出高は 150 億ドル余りであった。

ウズベキスタンでは 2011 年、製品輸出高が 2010 年比でおよそ 15.4%増加した。これは 2000 年比 4.6 倍の伸びである。貿易収支の黒字は 45 億ドルを上回った。輸出高に占める完成品の比重は 60%まで増加した。2000 年にはこの比重が約 46%であった。

2011 年、ウズベキスタンの銀行預金は 18 兆スムを上回った。これは 2010 年比 36.3%の増加である

銀行セクターの自己資本比率は最近の 5 年間、バーゼル銀行監督委員会が定めた国際基準である 8%を 3 倍上回るレベルにある。2010 年、「安定的」との格付けを受けた市中銀行は 15 行であったが、現在はその数が 23 行に達した。これらの銀行の資産を合わせるとウズベキスタンの銀行セクター全体の資産の 98%を超える。

銀行のクレジットポートフォリオが質的に変化している。2000 年には外債がクレジットポートフォリオの 54%を構成していたが、2011 年には国内資金源、すなわち法人と自然人の預金がクレジットポートフォリオの 85.3%を占めている。

市中銀行の資本融資の 75%余りが期間 3 年を上回る長期資本融資である。この 10 年間で実体経済部門への銀行融資が全体として 7 倍に増加した。

世界銀行の予測によれば 2012 年の GDP の成長率は 8 %になる可能性がある

これについては報告書「2012 年のグローバル経済見通し」の中で言及されている。経常収支の対 GDP 比率はおよそ 7%と予想されている。

国連の報告書「2012 年の世界の経済情勢と見通し」が評価したところによれば、ウズベキスタンは 2012 年と 2013 年、CIS 諸国の中で最も高い経済成長を達成する国のひとつになる

国連の専門家の予測によれば、ウズベキスタンの 2012 年の GDP 成長率は 7%となり、2013 年も同様な成長率が期待できる。

ウズベキスタン政府は 2012 年の GDP 成長率を 8.2%と予測

2012 年の生産高の予想伸び率は、鉱工業製品がおよそ 8.6%、農産物が 5.8%であり、投資額は 9.3%伸びると予想されている。国の財政収支の赤字は GDP の 1%以下に収まるとの予測である。赤字の補填は、2012 年当初の共和国財政収支の未処分残余金とそのほかのインフレ要因にならない資金源を原資に行うことになる。

投資政策

「競争力ある新製品の生産拡大および生産技術開発に関する最優先措置実施プログラム」が承認された

この文書は、ウズベキスタンの経済省、財務省、対外経済活動・投資・通商省が事業団体および企業と共同で策定した。このプログラムの枠内で今後数年の間に既存の企業をベースにして競争力ある製品の生産高の拡大を図るために約 50 のプロジェクトを実施することが計画されている。これらのプロジェクトの総額は 6 億 5800 万ドルになり、そのうち 1 億 7600 万ドルは各企業の自己資金、1 億 6400 万ドルは復興開発基金の資金、2 億 1000 万ドルは市中銀行による融資、1 億 800 万ドルは外国資本による内国投資と融資によって調達することになっている。

ウズベキスタンでは 2011 年、各種の地域投資プログラムの枠内で 1226 のプロジェクト向けに合わせて 8 億 4120 万ドルの資金が投資された。これは 2010 年比 18.5%の増加であった

このうち外国資本による直接投資は 380 のプロジェクト向けの 4 億 200 万ドルであった。これは 2010 年比 29.1%の増加である。投資額が大きかったセクターは次の通り：軽工業（1 億 30 万ドル）、建築資材生産（4540 万ドル）、有用地下資源の探鉱と採掘（3030 万ドル）、建設業およびインフラ整備（2940 万ドル）。これらの投資のおかげでわが国では 2 万 2100 人の雇用が新たに生み出された。

ウズベキスタン復興開発基金（FRR）は 2012 年、29 のプロジェクトの実施に向けて合わせて 7 億 5810 万ドルを配分の予定

FRR は、エネルギー産業、石油ガス産業、化学工業、輸送産業、社会インフラといった分野の各種プロジェクトの実施に向けて資金を配分する。これらのプロジェクトの費用は総額で 366 億ドルとなるが、このうち 2012 年にはあらゆる資金源を動員して 57 億 4,600 万ドルの投資を調達する計画である。復興開発基金は 2006 年に設立され、各種の国家投資プログラムに含まれるプロジェクトに融資したり、協調融資したりする。

ウズベキスタンは今後 5 年間で 62 億ドルの資金を投じて 270 を上回る技術設備更新、生産技術更新投資プロジェクトを実施する

すでに採択済みの「競争力ある新製品の生産拡大および生産技術開発に関する最優先措置実施プログラム」に従って、2012 年～2016 年の期間に、270 余りの投資プロジェクト（見積り額 62 億ドル）、ならびに技術設備および生産技術近代化・更新プログラムが各分野で実施される見込みである。

エネルギー・セクター

ウズベキスタンと中国が石油ガス分野のいくつかの協定に調印

次の 3 つの協定が調印された：液化天然ガス生産合弁企業設立に関するグアンハイ・インダストリズ社（中国）との包括協定、ミングブラク（Mingbulak）鉱床の共同開発における協力の基本原則に関する CNPC 社との協定、南ケマチ（South Kemachi）油ガス鉱床採掘設備整備プロジェクト向けの協調融資に関する中国国有銀行との融資協定。グアンハイ・インダストリズ社との液化天然ガス生産プロジェクトの総額は見積もりで 2 億 5000 万ドルになる。中国石油天然気集团公司（CNPC）は、ナマンガン州のミングブラク鉱床の探鉱と開発に 25 年間で 2 億 5531 万ドルを投資する計画である。

国営持株会社ウズベクネフチェガスが 2012～2015 年にウズベキスタン・ロシア合弁企業ジャルクランネフトカイトイシラシ（Dzharkurganneftkaitaishilash）社のオイルシェールおよびガスコンデンセート精製設備の能力増強プロジェクトを実施することを計画

この目的でプラントの建設に向けてウズベキスタンの重質油を精製するための特殊な精製技術と設備がロシア側によって開発された。このプロジェクトの総額は 4,230 万ドルとなり、そのうち 500 万ドルはウズベクネフチェガスの自己資金であり、3,730 万ドルは外国資本による対内投資と融資である。このプロジェクトが完工すれば生産量はガソリンが 4 万 9,500 トン、ディーゼル油が 3 万 6000 トン、燃料油（重油）が 5 万 4,700 トン、舗装用アスファルトが 9 万 8000 トンそれぞれ増加する。

2011 年～2015 年にウズベキスタンでは電力産業分野の発展のために 44 のプロジェクトが実施される見通しであり、その総額は 52 億 7000 万ドルになる

これらのプロジェクトのうち、火力発電所部門では 15 のプロジェクトを実施し、その費用が 37 億 6,000 万ドル、110～500kV 電力網部門では 15 のプロジェクトを実施し、その費用が 9 億 3,910 万ドル、水力発電所部門では 9 つのプロジェクトを実施し、そ

の費用が 2 億 230 万ドルになる。さらに電力消費量自動計算システムの導入、風力発電実験施設の建設および国営株式会社ウズベクエネルギー傘下の 2 つの大型工場の修理基地の設備更新に向けて 4 つのプロジェクトが組み立てられており、それらの費用が 3 億 7,190 万ドルになる。そのほか低圧電力網とこれに関連するインフラの近代化工事がウズベキスタン全域で始まった。この工事が完工すれば 200 万人を上回る住民が信頼度の高い電力供給の恩恵に浴することになる。また、計算によればこれらの措置によって各地域の 60 万の事業主体が事業活動を一段と活発化することが可能になる。

フェルガナ製油所は 2012 年～2014 年、1 億 1500 万ドルの経費を投じていくつかの近代化プロジェクトを実施する予定

とりわけ、「フェルガナ製油所をベースにした石油留分水素化精製プロジェクト」を 2012 年～2014 年に実施する予定になっており、費用として 9,900 万ドルが見込まれている。このプロジェクトが完工すれば年間最大 50 万トンの石油留分を精製することができる。同製油所の 2 つ目のプロジェクトでは含油スラッジ精製技術を導入することになっている。このプロジェクトの費用は 600 万ドルと見積もられている。このプロジェクトが完工すればフェルガナ製油所は年間最大 5,000 トンの含油スラッジを精製できるようになる。同製油所はまた、いくつかの排水処理施設の改修に着工することにしており、その費用として 1000 万ドルを見込んでいる。これらのプロジェクトに必要な資金は、国営持株会社ウズベクネフチェガスの資金および復興開発基金の融資によって調達することになっている。

韓国石油公社（KNOC）がウズベキスタンにおける地質探査に今後 5 年間で 8,940 万ドルを投資へ

地質探査は、ウズベキスタンのフェルガナ地区の西フェルガナおよびチナバド（Chinabad）の両投資鉱区で行われる予定である。KNOC は、最初の 3 年間に地質探査ミニマムプログラムの枠内で 2,940 万ドル以上を投資して総延長 1,200km の地震探査を行うことにしている。

国営持株会社ウズベクネフチェガスと公開型株式会社「カザンモーター製作生産合同（Kazan Motor Production Association）」がガスコンプレッサーユニット組立生産合併企業の設立を計画

両者は、石油ガス分野における現地化プログラムの一環としていくつかの共同プロジェクトを実施することを念頭に、協力覚書に調印した。ガスコンプレッサーユニットおよびその構成アセンブリの組立は、公開型株式会社「ブハラ修理・機械製作工場（Bukhara repair and engineering works）の既存の生産設備を使って行うことになる。このプロジェクトの総額は 5,000 万ドルである。資金は、復興開発基金の融資 2,000 万ドル、外国資本による内国投資 2,000 万ドルおよび国営持株会社ウズベクネフチェガスの自己資金 1,000 万ドルによって賄われる予定である。

ウズトランスガスと Petrochina International がウズベキスタンガスの中国向け供給契約に調印し、「ウズベキスタン—中国」ガスパイプライン第 3 ルートの建設に着工した

中国へのガス供給は、年間 100 億 m³ の規模で 2012 年から始まる。このプロジェクトの経費約 22 億ドルは、中国国家開発銀行の融資ならびに CNPC の直接投資によって賄われる。2009 年 12 月にガスパイプライン第 1 ルートが、2010 年に第 2 ルートがそれぞれ供用に引き渡されている。ガスパイプライン予定ルートの総延長は約 7000km（ウズベキスタン領域通過区間は 525km）である。ガスパイプラインの輸送能力は、第 1、第 2 ルートが合わせて年間 300 億 m³、第 3 ルートが年間 250 億 m³ である。第 3 ルートによるウズベキスタンガスの供給は 2014 年 1 月に始まるが、フル稼働に到達するのは 2015 年 12 月である。

低圧電力網近代化・更新プログラムの枠内で 2011 年～2015 年に総延長 1207.2km の電力網を新たに建設する予定

このうちの大部分 1181.9km が架空電力網となり、25.3km が埋設（ケーブル）電力網となる。そのほか変圧ポイントが 400 カ所に、容量 35kV の変電所が 13 カ所にそれぞれ設けられる予定である。工事規模の大きい州は、フェルガナ州（119.8km）、カシュカダリヤ州（111km）およびスルハンダリヤ州（108.4km）である。現在わが国の送電線の総延長は 23 万 5,000km 余りであるということを描きおきたい。また、最も複雑に分岐している電力線は 0.4-6-10kV 低電圧配電網である。

自動車・輸送セクター

アジア開発銀行が「CAREC-2020」戦略の諸目的の達成を支援するために今後 3 年間に 47 億ドルを供与する予定である

2001 年に策定された CAREC（中央アジア地域経済協力）プログラムには、アフガニスタン、アゼルバイジャン、カザフスタン、中国、キルギス、モンゴル、パキスタン、タジキスタン、トルクメニスタンおよびウズベキスタンが加盟している。このプログラムは、エネルギー産業、輸送および貿易支援の分野の各種の地域プログラムの実施を推進している。現在までに CAREC プログラム加盟各国、アジア開発銀行およびその他の多国間機関が、CAREC プログラムの一環として総額 170 億ドルに及ぶ 100 を超えるプロジェクトを承認している。これらのプロジェクトには、欧州、東アジア、南アジア、中近東およびそれ以遠を結んで CAREC 地域を南北、東西に縦断する 3600km の自動車道路、2,000km の鉄道路線を含む 6 つの輸送回廊が含まれる。

ウズベキスタンは 2012 年、自動車道路建設向けの資金投入額を（前年の）5 億 6600 万ドルから 9 億 1000 万ドルへ 60.8%増やす予定

延長 327km に及ぶ国際的意義を有する道路の近代化に 7 億 9,000 万ドル、地方道級および国道級の意義を有する一般自動車道路の補修工事に 1 億 2,000 万ドルがそれぞれ配分される。現在、ウズベキスタンの自動車道路の総延長は 14 万 6,400km である。そのうち 4 万 2,500km は一般幹線道路であり、国際的意義を有する自動車道路 3,200km

と国道級の自動車道路 1 万 8,800 万 km を含む。20 本の国際輸送ルートがさまざまな方向でウズベキスタンの領土を通過している。

ウズベキスタン共和国道路基金は 2012 年、自動車と橋梁の建設と改修に 3 億 6,000 万ドルを配分する。これは 2011 年比 12.5% の増加である

総延長が 517km の自動車道路、2 カ所の大型インターチェンジ、総延長が 544m の橋梁と陸橋の建設と改修が予定されている。

ウズベキスタンでは今年、自動車産業向けを含めた小型モーターの生産工場設立プロジェクトに着手する予定

計画では、このプロジェクトは 2012～2014 年に実施される。工場はナヴォイ自由産業経済特区に配置される。プロジェクトは総額およそ 800 万ドルになり、現在、ビジネスプランを作成し、外国投資家を選定している段階である。ウズベキスタン側パートナーは株式会社「ウズアフトサノアト (Uzavtosanoat)」である。工場が稼働を開始した暁には毎年 28 万台の各種モーターを生産する見込みである。

その他のセクター

Lemken (ドイツ) が有限会社「チルチクセリマシ (Chirchikcelmash)」と共同で農耕用機械類生産工場の稼働開始に向けて調整を行っている

最初の製品は 2013 年にはもう生産される。プロジェクトの総額は約 130 万ドルであり、そのうち 100 万ドルはウズアフトサノアトが負担し、30 万ドルは Lemken が負担する。工場の農耕用装備品の生産規模は年間最大 50 万基となる。このほか Lemken は 2012 年に現代的な汎用耕耘機の生産開始に向けた作業を始めることにしている。このプロジェクトは 2014 年に完工し、年間最大 3,500 台の耕耘機を生産することになっている。

国営株式会社「ウズベクエンギルサノアト (Uzbekengilsanoat)」が Terrot 社 (ドイツ) と共同で編機設備生産工場の設立を計画

プロジェクトの費用はおよそ 200 万ドルである。工場は 2013 年にはフル稼働に到達し、年間 50 台の編機設備を生産する予定である。

Kverneland (ドイツ) とタシケントトラクター工場 (TTZ) がトラクター用大型トレーラーおよびアタッチメント生産プロジェクトに着手

両者は現在、このプロジェクトの予備的フィジビリティスタディ (FS) に取り組んでいる段階である。計画では、フル稼働に達すれば TTZ は積載能力 6～8 トンのトレーラーを年間最大で 400 台、公共サービス事業向けの掘削用設備およびアタッチメントを 100 基生産する